

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 8 月 9 日 (2007.8.9)

【公開番号】特開 2001-132374 (P2001-132374A)
 【公開日】平成 13 年 5 月 15 日 (2001.5.15)
 【出願番号】特願 2000-305559 (P2000-305559)
 【国際特許分類】

E 2 1 B 43/01 (2006.01)

【F I】

E 2 1 B 43/01

【誤訳訂正書】
 【提出日】平成 19 年 6 月 7 日 (2007.6.7)
 【誤訳訂正 1】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】請求項 1
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【請求項 1】

水域の表面上方の位置から水域の底に隣接する位置へと伸びている第 1 ライザおよび第 2 ライザを用いて、水域の表面上方のデッキから水域の底へと掘削作業を行うように設計された沖合マルチアクティビティ掘削アセンブリとともに用いられるデュアルライザアセンブリであって、前記デュアルライザアセンブリは、

一端で前記第 1 ライザの遠位端に接続され、前記第 1 ライザの中央長手軸と実質的に一致して伸びている中央長手軸を有する第 1 ライザセグメントと、

一端で前記第 2 ライザの遠位端に接続され、前記第 2 ライザの中央長手軸と実質的に一致して伸びている中央長手軸を有する第 2 ライザセグメントとを備えており、

前記第 1 ライザセグメントおよび前記第 2 ライザセグメントは、連結されており、その他端で鋭角をなすように内部が連通した状態で合流しており、

前記第 1 ライザを前記第 1 ライザセグメントから選択的に分離するように前記第 1 ライザセグメントの前記一端に近接して接続されている第 1 バルブと、

前記第 2 ライザを前記第 2 ライザセグメントから選択的に分離するように前記第 2 ライザセグメントの前記一端に近接して接続されている第 2 バルブと、

前記第 1 ライザセグメントおよび前記第 2 ライザセグメントの前記合流する他端を掘削されるべき坑井孔に連結する連結手段と、

をさらに備えている、デュアルライザアセンブリ。

【誤訳訂正 2】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】請求項 3
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】
 【請求項 3】

前記連結手段と掘削されるべき坑井の頭部との間に配置される噴出防止スタックをさらに備えている、請求項 1 に記載のデュアルライザアセンブリ。

【誤訳訂正 3】
 【訂正対象書類名】明細書
 【訂正対象項目名】請求項 5
 【訂正方法】変更
 【訂正の内容】

【請求項 5】

前記第 1 ライザセグメント及び前記第 2 ライザセグメントに接続され、前記第 1 ライザセグメントおよび前記第 2 ライザセグメントの空間的な関係を固定する手段をさらに備えている、請求項 1 に記載のデュアルライザアセンブリ。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 7】

前記円柱状カラムの底部と接続され、先端が前記円柱状カラムの直径と類似した直径を有し、底部が前記第 1 ライザセグメント及び前記第 2 ライザセグメントのうちの大きい方と実質的に同じ直径を有するテーパジョイントをさらに備えている、請求項 6 に記載のデュアルライザアセンブリ。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 1 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1 4】

前記第 1 ライザセグメントおよび前記第 2 ライザセグメントの合流端を連結する前記手段は、前記第 1 ライザセグメントの前記第 2 ライザセグメントとの合流接合部を包囲し、前記第 1 および第 2 のライザセグメントの空間的、角度的な関係を固定するチューブ状カラムを備えている、請求項 1 2 に記載のデュアルライザアセンブリ。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 1 5

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1 5】

前記第 1 および第 2 のライザセグメントの空間的、角度的な関係を連結して固定する前記チューブ状カラムの底部セグメントと接続される先端が前記円柱状カラムの直径と類似した直径を有し、底部が前記第 1 ライザセグメント及び前記第 2 ライザセグメントのうちの大きい方と実質的に同じ直径を有するテーパジョイントをさらに備えている、請求項 1 4 に記載のデュアルライザアセンブリ。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 1 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1 6】

水域上方から水底に伸びている第 1 ライザと水域上方から水底に伸びている第 2 ライザと第 1 掘削アセンブリと第 2 掘削アセンブリとを有するマルチアクティビティ掘削アセンブリから、単一の坑井孔に対して沖合掘削作業を行う方法であって、前記方法は、

掘削されるべき坑井孔に隣接する遠位端で流体が水底に通じている状態で前記第 1 ライザを前記第 2 ライザに接合する工程と、

前記第 2 ライザセグメントを通る流体路を選択的に閉じる工程と、

前記第 1 ライザを通じて前記第 1 掘削アセンブリから前記坑井孔への掘削作業を行う工程と、

前記掘削作業の少なくとも一部の間、前記マルチアクティビティ掘削アセンブリから前

記第 2 ライザを通して掘削されるべき坑井孔の海中の頭部に隣接する位置へ前記第 2 掘削アセンブリを伸ばす工程と、
を包含する、方法。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】請求項 1 7

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【請求項 1 7】

前記坑井孔からほぼ水底で前記第 1 ライザを閉じる手段の上方にある前記第 1 ライザへ、前記第 1 掘削アセンブリを引き上げる工程と、

ほぼ水底で前記第 1 ライザセグメントを通る流体路を選択的に閉じる工程と、

ほぼ水底で前記第 2 ライザを開ける工程と、

前記第 2 ライザを通じて前記第 2 掘削アセンブリから前記坑井孔への掘削作業を行う工程と、

をさらに備えている、請求項 1 6 に記載のマルチアクティビティ掘削アセンブリから単一の坑井孔に対して沖合掘削作業を行う方法。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 2】

今度は図 2 を参照すると、本発明の好ましい実施態様において構成されたデュアルライザアセンブリ 4 0 の側面図が示されている。掘削船 1 0 から下ろされている第 1 のライザストリング 3 0 の遠位端 3 3 は、二重相フランジ 3 6 によって第 1 のライザセグメント、すなわちデュアルライザアセンブリ 4 0 のブランチ 3 8 に取り付けられる。さまざまな設計が二重相フランジ 3 6 について用いられ得るが、アメリカンペトロリウムインスティテュート (API) のフランジが好ましい。同様に、第 2 のライザストリング 3 2 の遠位端 4 2 が、ライザコネクタ 4 4 によって第 2 のライザセグメント 4 6 に取り付けられる。ブロックとして示されているが、ライザコネクタ 4 4 は 2 つのアメリカンペトロリウムインスティテュート (API) フランジであってもよい。第 2 のライザセグメント 4 6 は、第 1 のライザセグメント 3 8 に対して約 10 度 (10°) の角度をなす中央の長手軸 4 8 を有している。したがって、図 3 A に断面で示されている第 1 および第 2 のライザセグメントは収束して合流し、位置 5 2 (図 2 および図 3 参照) で始まって、共通のパスウェイ (図 3 C 参照) へと至る。

【誤訳訂正 1 0】

【訂正対象書類名】図面

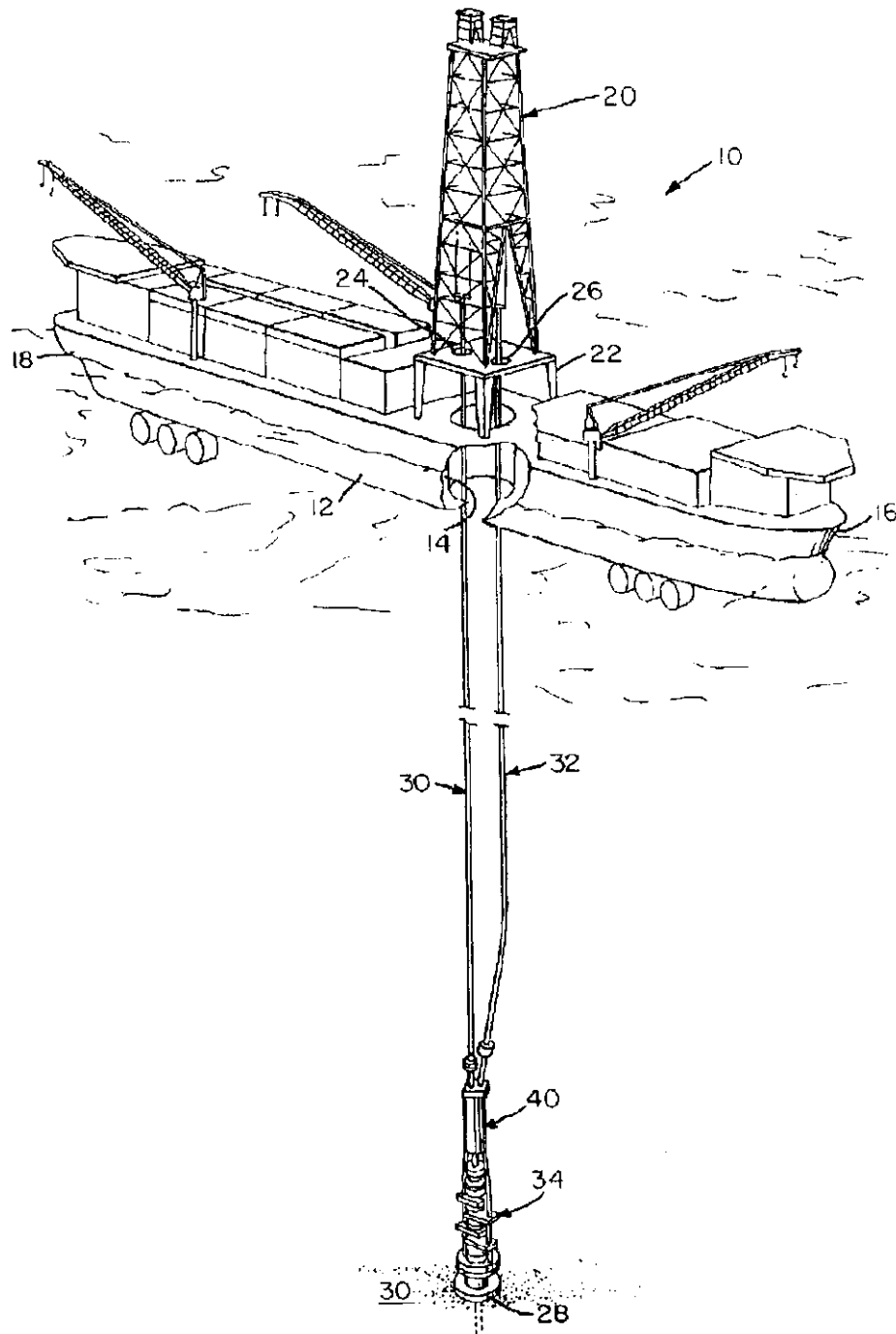
【訂正対象項目名】全図

【訂正方法】変更

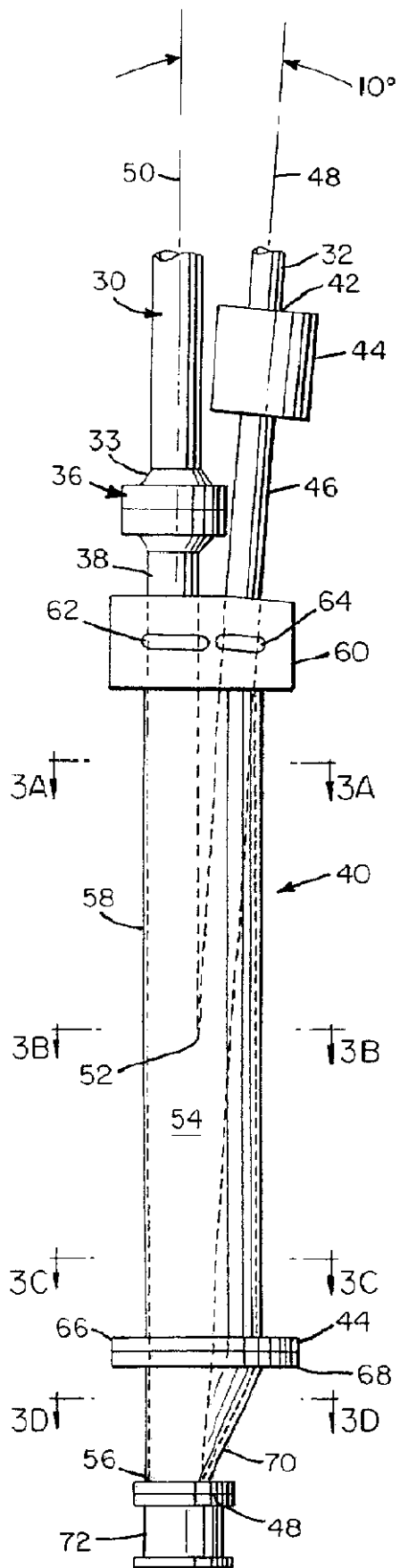
【訂正の内容】

【書類名】図面

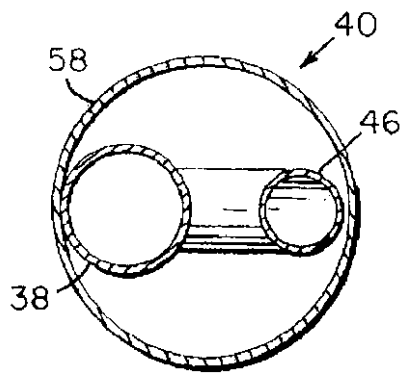
【図 1】



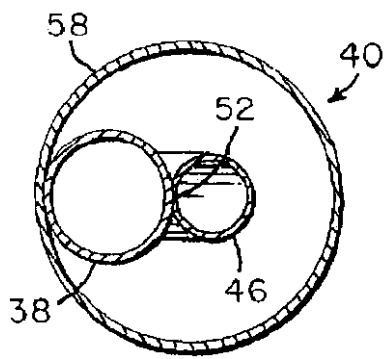
【 図 2 】



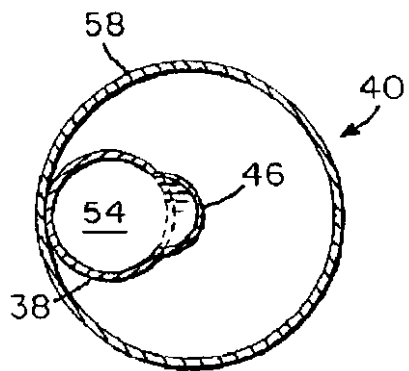
【図 3】



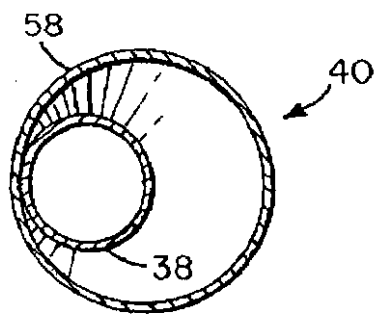
A



B



C



D

